



平成 18 年 6 月期 第 3 四半期決算短信（非連結）

平成 18 年 5 月 11 日

会社名 株式会社旅籠屋
 コード番号 4807
 本社所在地 東京都台東区寿3丁目3番4号
 問い合わせ先 責任者役職名 代表取締役社長
 氏 名 甲斐 真

グリーンシート銘柄
 本社所在都道府県 東京都

TEL (03) 3847-8858
 中間配当制度の有無 無

1. 平成 18 年 6 月期第 3 四半期の業績（平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

- (注) 1. 本四半期決算短信の数値は、未監査です。
 2. 本四半期決算短信の数値は、税効果会計の適用等、所要の会計上の修正を行っていません。
 3. 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(1) 経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年第 3 四半期	224	(14.1)	7	(△49.9)	4	(△49.9)
17 年第 3 四半期	197	(23.7)	14	(2.1)	9	(△10.8)

	当期純利益	1 株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	株主資本 当期純利益率	総資本 経常利益率	売上高 経常利益率
	百万円 %	円 銭	円 銭	%	%	%
18 年第 3 四半期	2 (△71.5)	435 03	381 71	1.6	1.2	2.1
17 年第 3 四半期	8 (△14.1)	1,525 28	1,400 21	5.7	2.2	4.8

- (注) 1. 期中平均株式数 18 年 3 月期 5,620 株 17 年 3 月期 5,620 株
 2. 会計処理の方法の変更 無
 3. 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前年同期増減率

(2) 財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1 株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円 銭	
18 年第 3 四半期	370	156	42.3	27,900	85
17 年第 3 四半期	433	155	35.9	27,728	21

- (注) 期末発行済株式数 17 年 6 月期 5,620 株 16 年 6 月期 5,620 株

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円	百万円	百万円	百万円	
18 年第 3 四半期	12	58	△61	28	
17 年第 3 四半期	30	△11	4	33	

2. 平成 18 年 6 月期の業績予想（平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日）

通 期	売上高 百万円 316	経常利益 百万円 9	当期純利益 百万円 6	1 株当たり年間配当金		
				中 間 円 銭 -	期 末 円 銭 0 0	円 銭 0 0

(参考) 1 株当たり予想当期純利益（通期） 1,067 円 62 銭

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

第 12 期

第 3 四半期報告書

(平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで)



平成 18 年 5 月 11 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
コード番号	4807
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

I 四半期の業績

(1) 損益計算書 (単位: 千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度 第3四半期 H17.1.1~ H17.3.31	前年度 第4四半期 H17.4.1~ H17.6.30	当年度 第1四半期 H17.7.1~ H17.9.30	当年度 第2四半期 H17.10.1~ H17.12.31	当年度 第3四半期 H18.1.1~ H18.3.31	当年度 累計 H17.7.1~ H18.3.31	前年同期比	前年度 累計 H16.7.1~ H17.3.31
I 営業収益	売上高	52,532	66,668	97,650	61,412	65,802	224,865	+14.1%	197,098
II 営業費用	売上原価	47,982	52,103	59,082	57,654	62,548	179,284	+18.4%	151,376
	販売費及び一般管理費	10,306	12,763	12,051	12,940	13,514	38,506	+21.8%	31,608
	営業利益または営業損失(▲)	▲5,756	1,801	26,516	▲9,181	▲10,260	7,074	▲49.9%	14,114
III 営業外収益		70	84	111	32	33	176	▲42.7%	307
IV 営業外費用		2,063	1,434	904	934	714	2,553	▲49.5%	5,052
	経常利益または経常損失(▲)	▲7,750	451	25,722	▲10,084	▲10,941	4,696	▲49.9%	9,368
V 特別利益		—	—	—	—	—	—	—	—
VI 特別損失		—	—	210	—	—	210	—	—
	税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲7,750	451	25,512	▲10,084	▲10,941	4,486	▲52.1%	9,368
	法人税、住民税及び事業税	265	1,926	680	680	680	2,041	+156.4%	796
	四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲8,015	▲1,474	24,832	▲10,764	▲11,622	2,444	▲71.5%	8,572
	前四半期(前期)繰越損失(▲)	▲136,351	▲144,367	▲145,842	▲121,009	▲131,774	▲145,842	(—)	▲152,939
	四半期(当期)未処理損失(▲)	▲144,367	▲145,842	▲121,009	▲131,774	▲143,397	▲143,397	(—)	▲144,367
	期中平均株式数	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	—	5,620 株
	1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲1,426 円	▲262 円	4,418 円	▲1,915 円	▲2,068 円	435 円	▲1,090 円	1,525 円
	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益(注1)	—	—	3,917 円	—	—	382 円	▲1,018 円	1,400 円

(注1) 前年度第3・第4四半期および当年度第2・第3四半期については、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

(2) 部門別内訳 (単位: 千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

本社	売上高	358	10,805	5,247	1,698	350	7,296	+120.4%	3,311
	経常損益	▲11,195	▲2,539	▲7,396	▲11,880	▲13,593	▲32,870	▲7.8%	▲30,495
日光鬼怒川店	売上高	7,694	8,281	14,366	8,340	8,176	30,883	▲0.6%	31,069
	経常損益	863	795	5,773	1,067	1,073	7,914	+6.4%	7,441
	客室稼働率	47.4%	50.1%	61.8%	53.5%	56.9%	57.4%	+2.8 p	54.6%
那須店	売上高	5,410	6,436	11,112	6,535	5,490	23,138	0.0%	23,139
	経常損益	302	577	5,258	1,094	573	6,926	+12.7%	6,145
	客室稼働率	51.9%	60.6%	78.4%	66.2%	46.9%	64.0%	▲1.4 p	65.4%
秋田六郷店	売上高	2,748	4,327	5,909	2,978	2,166	11,054	▲12.7%	12,662
	経常損益	▲1,410	▲440	1,325	▲1,333	▲2,033	▲2,041	▲322.6%	▲483
	客室稼働率	38.1%	51.3%	56.6%	41.7%	30.0%	42.9%	▲9.0 p	51.9%
山中湖店	売上高	7,526	8,059	14,290	8,374	7,954	30,618	+1.0%	30,300
	経常損益	1,765	1,569	6,607	1,605	1,546	9,760	▲10.9%	10,960
	客室稼働率	58.3%	66.3%	87.2%	72.4%	64.3%	74.7%	+4.1 p	70.6%
沼田店	売上高	7,640	5,938	8,500	6,947	7,684	23,132	+0.1%	23,118
	経常損益	1,787	▲61	2,752	599	1,260	4,612	▲17.4%	5,585
	客室稼働率	83.4%	72.3%	82.5%	80.4%	91.9%	84.9%	+2.5 p	82.4%
水戸大洗店	売上高	6,362	6,030	9,820	5,554	5,891	21,266	▲6.6%	22,774
	経常損益	895	509	3,979	235	378	4,593	▲25.3%	6,148
	客室稼働率	75.7%	71.2%	80.1%	64.1%	67.4%	70.6%	▲7.3 p	77.9%
北上店	売上高	3,900	5,022	7,911	4,704	4,248	16,864	+20.7%	13,969
	経常損益	▲904	▲420	2,505	▲717	▲637	1,149	(—)	▲678
	客室稼働率	49.6%	62.7%	80.3%	61.4%	54.0%	65.3%	+13.3 p	52.0%
仙台亘理店	売上高	4,869	5,441	7,414	5,298	4,167	16,880	+2.9%	16,402
	経常損益	▲315	▲352	1,959	▲156	▲1,098	704	▲8.7%	771
	客室稼働率	71.9%	65.2%	63.8%	65.9%	50.6%	60.2%	▲8.9 p	69.1%
小淵沢店	売上高	6,021	6,325	9,622	6,476	6,158	22,257	+9.4%	20,350
	経常損益	461	814	3,716	667	598	4,982	+24.3%	4,007
	客室稼働率	77.5%	82.5%	85.9%	77.4%	78.7%	80.7%	+5.7 p	76.6%
前橋南店	売上高(運営受託料)			3,454	2,990	3,009	9,454	—	—
	経常損益			▲563	▲422	▲310	▲1,296	—	▲35
	客室稼働率			51.5%	61.8%	69.2%	60.8%	—	—
九十九里店	売上高			—	1,513	5,356	6,869	—	—
	経常損益			▲20	▲804	68	▲756	—	—
	客室稼働率			—	45.4%	76.6%	68.6%	—	—
東京新木場店	売上高			—	—	5,148	5,148	—	—
	経常損益			▲175	▲40	1,233	1,017	—	—
	客室稼働率			—	—	97.2%	97.2%	—	—
全社合計	売上高	52,532	66,668	97,650	61,412	65,802	224,865	+14.1%	197,098
	経常損益	▲7,750	451	25,722	▲10,084	▲10,941	4,696	▲49.9%	9,368
	客室稼働率	60.6%	63.8%	72.4%	63.5%	63.2%	66.2%	+0.2 p	66.0%

(3) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目		期別	前年度 第3四半期末 H17.3.31	前年度 第4四半期末 H17.6.30	当年度 第1四半期末 H17.9.30	当年度 第2四半期末 H17.12.31	当年度 第3四半期末 H18.3.31
(資産の部)	I 流動資産						
	現金預金		33,259	17,371	36,057	61,023	28,105
	その他		6,389	8,210	39,051	27,343	33,176
	流動資産合計		39,649	25,581	75,108	88,366	61,282
	II 固定資産						
	有形固定資産		373,849	369,490	271,447	270,636	271,912
	無形固定資産		1,387	1,239	1,410	2,837	2,806
投資その他の資産		18,767	25,216	35,022	34,922	34,852	
固定資産合計		394,003	395,945	307,880	308,396	309,572	
資産合計		433,652	421,527	382,989	396,763	370,854	
(負債の部)	I 流動負債		11,008	59,728	49,877	68,604	66,453
	II 固定負債		266,811	207,442	153,922	159,733	147,598
	負債合計		277,819	267,170	203,799	228,337	214,051
(資本の部)	I 資本金		281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
	II 資本剰余金						
	資本準備金		19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
	III 利益剰余金						
	四半期(当期)未処理損失(▲)		▲144,367	▲145,842	▲121,009	▲131,774	▲143,397
資本合計		155,832	154,357	179,190	168,425	156,802	
負債資本合計		433,652	421,527	382,989	396,763	370,854	
発行済株式総数		5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	
1株当たり純資産		27,728 円	27,466 円	31,884 円	29,969 円	27,900 円	

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しています。
- 税金の計上基準 法人税、住民税および事業税の年間見積り額の4分の1相当額を計上しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

なお、当該四半期の貸借対照表および損益計算書については、監査法人の監査を受けておりません。

(5) 重要な会計方針

1. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産 定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
建物：17～18年、構築物：15～20年、車両運搬具：4～6年、工具器具備品：3～8年
 - (2) 無形固定資産 定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しています。
 - (3) 長期前払費用 均等償却によっています。
2. リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。
3. 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

Ⅱ 第12期第3四半期（平成17年7月1日～平成18年3月31日）の業績の概況

(0) 本社

前年同期に比べ、新規出店契約の増加により売上は倍増しましたが、費用の増加（株式の譲渡制限撤廃にともなう手数料と印紙税：約2,000千円、増資にともなう手数料と登録免許税：約700千円を含む）によって経常損失は拡大しました。

(1) 日光鬼怒川店

利用者の減少が続いていましたが、今期は稼働率が増加に転じ、経常利益も微増（7,441→7,914千円）となりました。

(2) 那須店

前年同期に比べ、稼働率・売上高ともにほぼ横ばいですが、経常利益は増加（6,145→6,926千円）しています。

(3) 秋田六郷店

前年同期に比べ、稼働率（51.9→42.9%）売上高（▲12.7%）経常利益（▲483→▲2,041千円）ともに大幅に減少しました。

(4) 山中湖店

「所有店」から「借上店」になったため、稼働率は増加したものの、経常利益は減少（10,960→9,760千円）しました。

(5) 沼田店

稼働率はきわめて好調（84.9%）ですが、単価が下がり費用も増えたため、経常利益は減少（5,585→4,612千円）しました。

(6) 水戸大洗店

前年同期に比べ、稼働率（77.9→70.6%）売上高（▲6.6%）経常利益ともに減少（6,148→4,593千円）しました。

(7) 北上店

稼働率（52.0→65.3%）売上高（+20.7%）経常利益（▲678→1,149千円）ともに大幅に改善し、黒字転換の見通しです。

(8) 仙台亘理店

稼働率（69.1→60.2%）は減少しましたが、客室単価の上昇により、売上高と経常利益はほぼ前年並みとなりました。

(9) 小淵沢店

前年同期に比べ、稼働率（76.6→80.7%）売上高（+9.4%）経常利益（4,007→4,982千円）ともに順調に増加しました。

(10) 前橋南店

オープン当初の低調から脱し稼働率も上昇していますが、客室単価が低いため、通期で黒字達成には届かない見通しです。

(11) 九十九里店

オープンから4ヶ月経過し、順調に稼働率を伸ばしており、通期での損益均衡を目指しています。

(12) 東京新木場店

オープン（3月15日）直後から春休みシーズンを迎え、黒字となりましたが、4月以降の平日の稼働率確保が課題です。

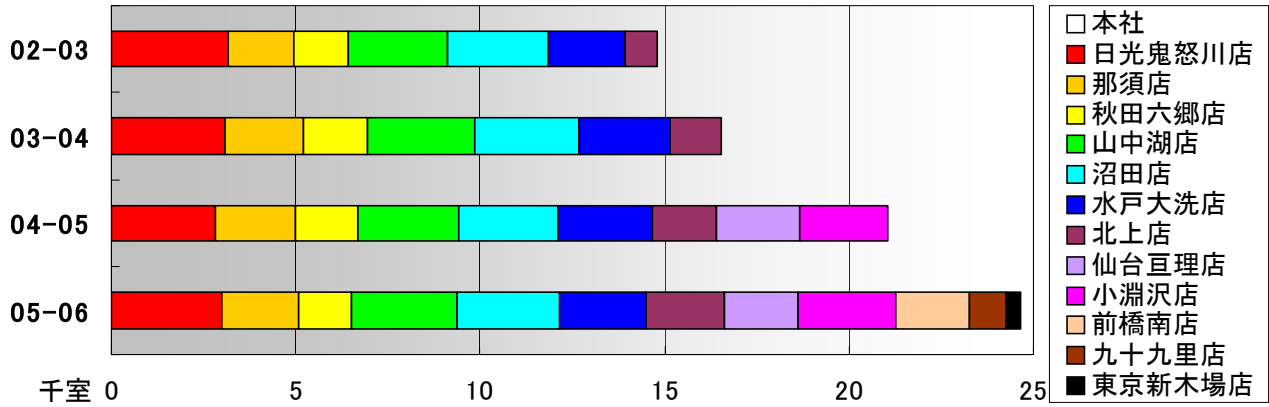
(13) 全社

既存9店舗では、稼働率（66.0→66.3%）売上高（+1.2%）ともに微増、経常利益は微減（39,898→38,602千円）でしたが、「山中湖店」の出店方式変更を考慮すれば微増という状況です。店舗別に見ると、「秋田六郷店」と「水戸大洗店」が大きく業績を下げているが、後者は回復傾向が見られます。大幅増加を続けていた「北上店」に頭打ちが見られる一方で、「日光鬼怒川店」の減少傾向が止まりつつあります。「秋田六郷店」を除けば、稼働率がほぼ60%を超え、黒字経営となっていますので、今後とも総じて堅調に推移すると予想しています。「秋田六郷店」の業績向上が大きな課題です。

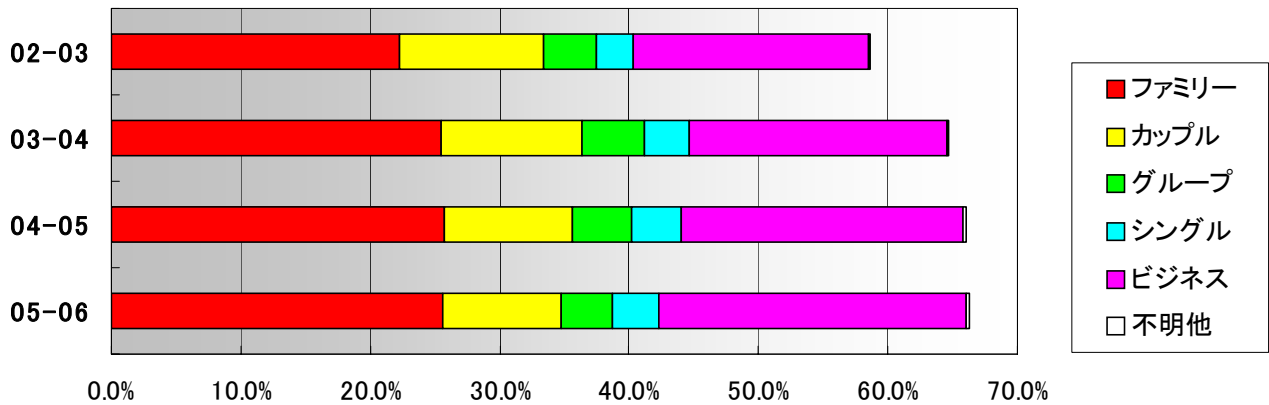
新規オープンの3店舗については、順調なスタートを切っており、いずれも初年度ながらほぼ損益均衡が確実な見通しです。来年度は大きな利益を計上できると期待しています。

以上のことから、全社の売上高は、店舗増により増加（+14.1%）しましたが、経常利益については新規出店費用と本社費用の増加によって前年同期を下回り（9,368→4,696千円）しました。通期での黒字継続を必達目標としていますが、大きな拡大は難しい見通しです。

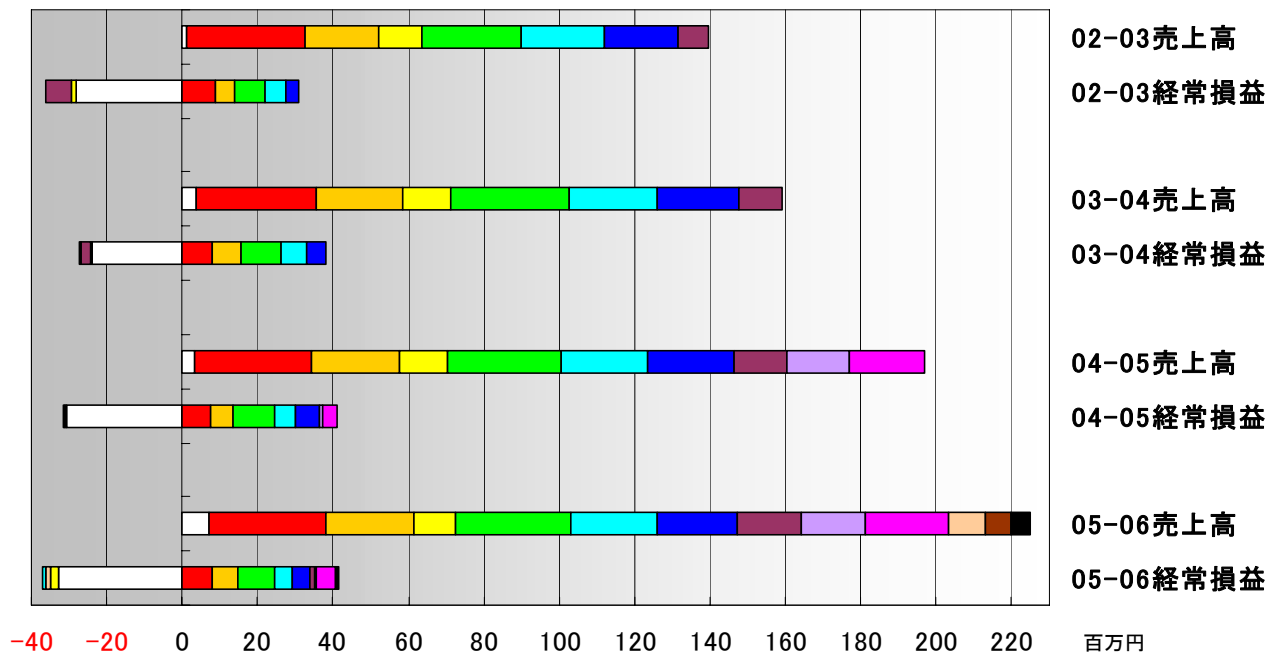
●利用客室数（全店合計、店舗別内訳）の推移（2005.7/1～2006.3/31）



●客室稼働率（全店通算、構成内訳）の推移（2005.7/1～2006.3/31）



●売上高・経常損益（全社合計、部門別内訳）の推移（2005.7/1～2006.3/31）



Ⅲ 第12期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第11期 通期実績 H16.7.1～ H17.6.30	第12期				
		第1四半期 実績 H17.7.1-9.30	第2四半期 実績 H17.10.1-12.31	第3四半期 実績 H18.1.1-3.31	第4四半期 予想 H18.4.1-6.30	通期予想 H17.7.1～ H18.6.30
売上高	263,767	97,650	61,412	65,802	91,136	316,000
経常損益	9,820	25,722	▲10,084	▲10,941	4,303	9,000
当期純損益	7,097	24,832	▲10,764	▲11,622	3,554	6,000

売上高は当初の予想を上回る見通しですが、本社の費用増（株式の譲渡制限撤廃・増資、サーバのホスティング、店舗地震保険の加入、人件費など）と複数の店舗オープンにより、第3四半期までの経常利益は予想を下回る結果となっています。

第4四半期は、今年度オープンの「前橋南店」「九十九里店」「東京新木場店」が軌道に乗りつつあるため店舗関連の利益は増加する見通しですが、前年同期に10,000千円以上あった新規出店契約関連の本社売上（「九十九里店」「山中湖店」の企画調整費と「前橋南店」のチェーン加盟料）が今期は減る見通しのため、通期では前年度を超えることは難しい状況です。

経費の節減、新規出店の早期契約などに努め、可能な限り、前年度並みの利益を計上したいと考えています。

Ⅳ 資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第11期 第4四半期 H17.4.1～6.30	第12期 第1四半期 H17.7.1～9.30	第12期 第2四半期 H17.10.1～12.31	第12期 第3四半期 H18.1.1～3.31
現金および預金の増減額	▲15,887	+18,686	+24,966	▲32,918
現金および預金の四半期首残高	33,259	17,371	36,057	61,023
現金および預金の四半期末残高	17,371	36,057	61,023	28,105

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第11期 第4四半期 H17.4.1～6.30	第12期 第1四半期 H17.7.1～9.30	第12期 第2四半期 H17.10.1～12.31	第12期 第3四半期 H18.1.1～3.31
短期借入金の増減額	—	—	—	—
短期借入金の四半期首残高	—	—	—	—
短期借入金の四半期末残高	—	—	—	—

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示) 1年以内返済予定額を含みます。

科目	期別 第11期 第4四半期 H17.4.1～6.30	第12期 第1四半期 H17.7.1～9.30	第12期 第2四半期 H17.10.1～12.31	第12期 第3四半期 H18.1.1～3.31
長期借入金の増減額	▲16,073	▲60,621	+22,848	▲13,386
長期借入金の四半期首残高	266,702	250,629	190,008	212,856
長期借入金の四半期末残高	250,629	190,008	212,856	199,470

借入金の減少は、約定返済によるものです。

V 今後の事業展開と出店計画について

12号「東京新木場店」がオープン

3月15日、予定通りオープンしました。

初の東京出店という話題性をフルに活用するため、今回初めてPR会社にパブリシティ活動を依頼し、プレス向けの内覧会などを開催した結果、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」で紹介されるなど、多くの媒体に取り上げられました。



リサ・パートナーズと資本提携を含む業務提携

3月14日、株式会社 リサ・パートナーズ（東証1部）と資本提携を含む業務提携を締結しました。これにもとづき、同社を引き受け先とする第三者割当による新株式発行を行い、4月7日、払い込みが完了し、増資手続きが完了しました。

今回オープンした「東京新木場店」は、同社との共同プロジェクトとして実現したもので、今後は、同社の不動産取得・開発ノウハウと当社の店舗運営ノウハウを融合し、緊密に協力しながら全国各地の遊休地活用によって「ファミリーロッジ旅籠屋」の更なる店舗拡大を図る計画です。

なお、今回の増資により、資本金は5,000万円増えて3億3,100万円となりました。

その他の出店計画

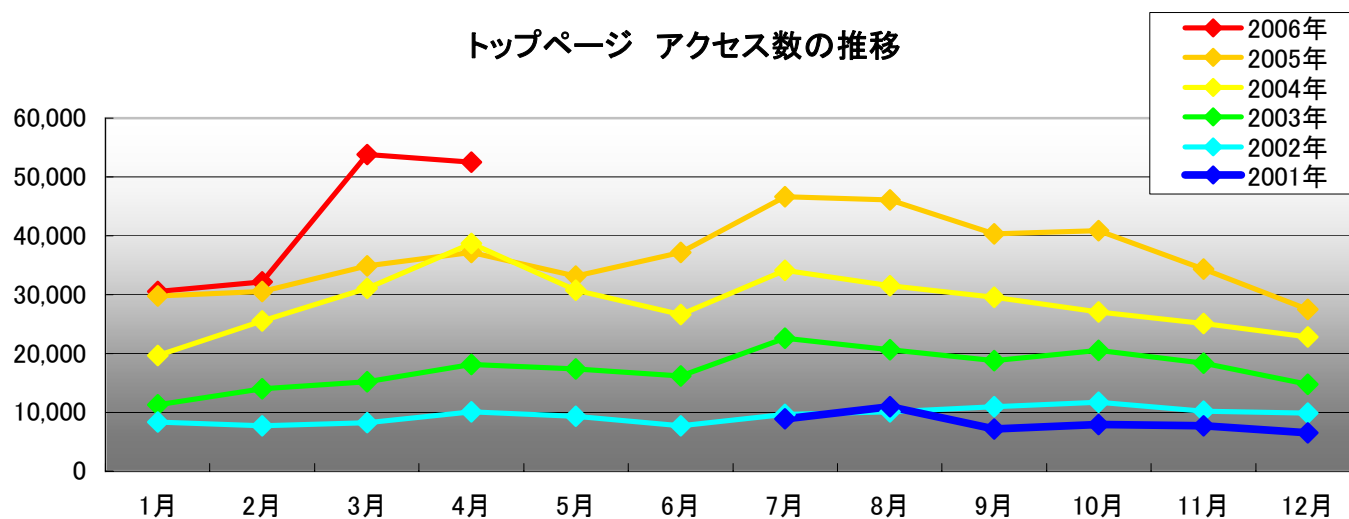
昨年夏以来、長野県内において進めていた出店計画については、近隣からの強い反対があり協議を重ねてきましたが進展が見られないため、1月下旬には役所に必要な申請手続きを行い、最終的な調整を行っているところです。ただし、日程的に本年夏前のオープンには間に合わないため、今秋に着工し、来春のオープンを予定しています。詳細が確定した時点で発表します。

その他、関西や北陸において複数の案件を具体化しており、来年度は4店舗前後のオープンを実現したいと考えています。

パブリシティ活動を強化

前述の通り、「東京新木場店」のオープンを機にパブリシティ活動を強化し、知名度アップに努めています。

費用節減のため、広告宣伝は最小限にとどめていますが、ホームページへのアクセス数は順調に増加しています。



以上